

事業報告書

平成24年度

(第5期事業年度)

自 平成24年 4月 1日

至 平成25年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

①設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

②事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

③主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

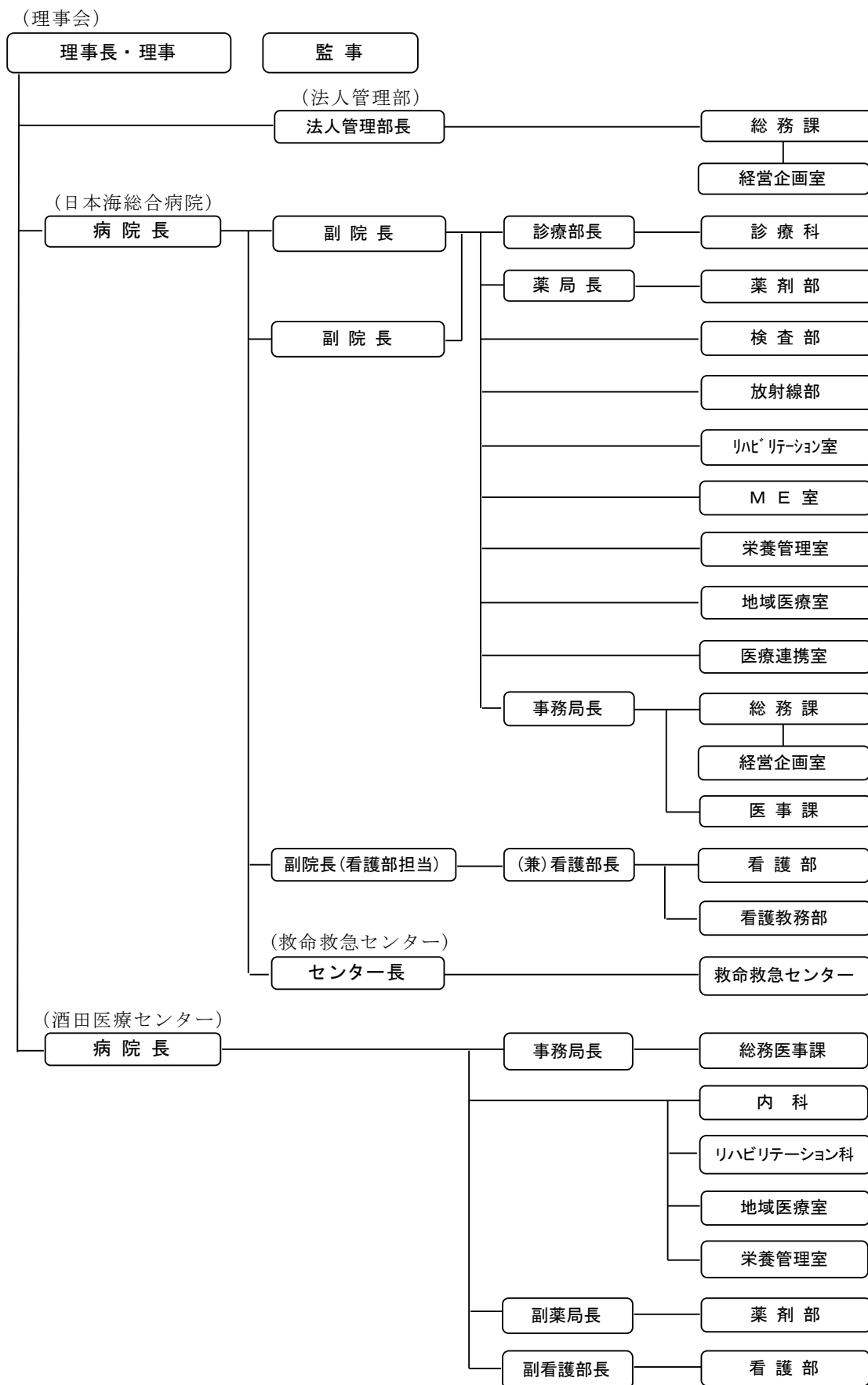
④役員

職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	田宮 和朗
理事	島貫 隆夫
理事	小熊 正樹
理事	佐藤 三紀
理事	脇川 清道
監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

⑤ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院 酒田医療センター	酒田市千石町2丁目3番20号

⑥ 組織



⑦ 職員の状況

(4月1日現在)

職 種	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H23	H24	増減	H23	H24	増減	H23	H24	増減
医師・歯科医師	115	119	4	4	4	0	119	123	4
医療技術員	115	122	7	12	17	5	127	139	12
看護職員	544	552	8	41	37	-4	585	589	4
事務職員	35(8)	32(1)	-3(-7)	7	6	-1	42(8)	38(1)	-4(-7)
計	820	825	5	64	64	0	884	889	5
法人職員	752	785	33	59	60	1	811	845	34
県派遣職員	61	34	-27	0	0	0	61	34	-27
市派遣職員	7	6	-1	5	4	-1	12	10	-2

※()は法人管理部職員数で内数

⑧ 資本金の状況

10, 124, 779, 678円 (平成24年9月24日変更登記時)

◇平成24年度の事業概要

1 診療計画及び診療に関する重点事項等

(1) 診療計画

日本海総合病院では地域の中核病院として急性期医療の充実に努め、日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）では回復期医療への取り組みを行った。

また、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、地域医療向上のために後述のような取り組みを行った。

①日本海総合病院の体制

日本海総合病院の機能

規 模	646床
診 療 科 (25科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科
病床の種別	一般病床
併設診療機能	救命救急センター、屋上ヘリポート設置
特殊診療機能	ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室） 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	診療科全般
そ の 他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所

②酒田医療センターの体制

酒田医療センターの増築・改修工事が竣工する予定であったが、東日本大震災の被災地復興事業の影響を受けて、工期を2ヶ月延長し平成25年5月31日とした。

退院後も機能回復目的のリハビリテーションが必要な患者がいることから、平成24年10月より外来でのリハビリテーションを開始した。このため、通所リハビリテーションについては、平成25年度から実施することとした。

酒田医療センターの機能

規 模	114床
診 療 科 (2科)	内科、リハビリテーション科
病床の種別	療養病床
特殊診療機能	地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
そ の 他	病院間移動用ワゴン車

(2) 診療に関する重点事項

①診療体制の整備

医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成24年度は、次のとおり診療部門の充実及び見直しを行った。

a) 救急医療(日本海総合病院)

○救命救急センターの機能の充実を図るため、専門医育成等の検討を行った。

○酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」との連携強化を図り、当該組合の要請によって、医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。

・平成24年度の出動実績は、3件であった。

○平成24年11月に運航開始した「山形県ドクターヘリ」の受け入れ態勢の整備を行った。

○酒田地区医師会の協力により、平日夜間救急外来（小児を含む。）において、継続して診療支援が行われた。

【実績】救命救急センター受診状況

		H23	H24
延べ患者数		23,856名	23,979名
酒田地区医師会	小児(延べ)	(830名)	(743名)
診療支援	成人(延べ)	(1,914名)	(1,715名)

※（ ）内は、「延べ患者数」の内数である。

b) がん医療(日本海総合病院)

○看護師1名に「相談支援センター相談員基礎研修(3)」を受講させ、がん相

談員を1名増の4名体制とする等、がん相談支援体制の充実を図った。

【実績】がん相談件数

H 2 3	H 2 4
9 3 4 件	8 1 8 件

○平成24年6月にPET/CTを稼働させた。

・平成24年度の検査件数は、442件であった。

○手術、放射線療法及び化学療法を、効果的に組み合わせて治療を実施した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	H 2 3	H 2 4
手術	1, 0 6 5 件	1, 1 2 3 件
放射線療法	9, 5 1 3 件	7, 7 9 3 件
外来化学療法	3, 8 9 6 件	3, 0 9 2 件

○緩和ケア医療の充実

【実績】病棟回診延べ患者数、緩和ケア外来患者数

	H 2 3	H 2 4
病棟回診	3 8 3 名	3 6 7 名
緩和ケア外来	1 0 0 名	1 0 5 名

○セカンドオピニオン外来の充実

【実績】

H 2 3	H 2 4
2 件 (がん2件)	4 件 (がん3件)

※ () は、内数である。

○地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行った。

【実績】がん登録件数

	H 2 3	H 2 4
院内がん登録	1, 7 1 6 件	1, 6 8 4 件
地域がん登録	1, 6 9 1 件	1, 6 5 3 件

c) 脳卒中・急性心筋梗塞

○救命救急センターと関係する各診療科、リハビリテーション部門との連携強化を図り、救命率等の向上に努めた。

○専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応

【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数

機器	H 2 3	H 2 4
CT	1, 0 6 0 件	1, 0 1 5 件
MRI	9 9 7 件	8 1 9 件

【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数

機器	H 2 3	H 2 4
CT	2 2 0件	2 5 5件
MRI	3 2件	4 0件

○日本海総合病院では急性期リハビリテーションを、酒田医療センターでは回復期リハビリテーションの充実を図った。

【実績】心大血管疾患リハビリテーション料 1

	H 2 3		H 2 4	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	325名	3,341回	422名	9,196回

【実績】脳血管疾患リハビリテーション料 1

	H 2 3		H 2 4	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	1,157名	39,437回	1,303名	44,118回
酒田医療センター	206名	23,661回	243名	40,963回

d) 糖尿病(日本海総合病院)

○チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の治療を行った。

【実績】教育入院患者数

H 2 3	H 2 4
7 9 名	8 3 名

【実績】個別栄養指導件数

	H 2 3	H 2 4
入院	1 9 1 件	2 3 9 件
外来	1 4 3 件	3 3 6 件
合計	3 3 4 件	5 7 5 件

e) 回復期リハビリテーション(酒田医療センター)

○平成24年2月1日から回復期リハビリテーション病棟を稼働させ、平成24年4月1日から回復期リハビリテーション入院基本料3の算定を開始した。また、平成24年10月から外来でリハビリテーションを開始した。

・平成24年度のリハビリテーション科の延べ患者数は、次のとおりであった。

入院	外来
1 1, 3 6 6 名	1 2 0 名

f) 在宅医療支援及び療養支援

○日本海総合病院の医事課医療連携室(3名体制)を事務室から移転させ、地域医療室と同室にすることで、業務の効率化と相談機能の充実を図った。

○酒田医療センターは3名体制で、退院調整及び入院前面談等を実施した。

【実績】退院調整

	日本海総合病院		酒田医療センター	
	H23	H24	H23	H24
他病院	874件	875件	32件	28件
在宅	502件	522件	113件	177件
介護老人保健施設	73件	70件	47件	39件
介護老人福祉施設	164件	154件	10件	5件
ショートステイ	127件	89件	9件	11件
有料老人ホーム	78件	115件	9件	21件
その他	81件	81件	9件	8件
合計	1,899件	1,906件	229件	289件

【実績】入院前面談件数（酒田医療センター）

	H23	H24
入院前面談件数	374件	397件
うち入院患者数	365名	377名

○在宅や介護・福祉施設で医療支援を必要としている方に対して、他の医療機関及び介護・福祉機関と連携して医療支援を行った。

○酒田地区医師会十全堂訪問看護ステーション「スワン」が、酒田医療センターに継続して設置されたことによって、在宅医療との連携強化を図った。

g) その他

○患者移動用ワゴン車「げんき号」については、運行経路の変更にともない、運行回数を1日当たり定期便7往復に減便しながらも利便性の保持のため、月平均約5往復の臨時便を運行した。

②災害時や健康危機における医療協力

○平成24年12月7日に三陸沖を震源とする地震が発生し、宮城県太平洋沿岸に津波警報が発表された。山形県からDMATの待機要請があったが、2時間後に警報が解除されたため、DMATは出動しなかった。

○山形県地域災害医療コーディネーターに、日本海総合病院の2名の医師が委嘱された。（期間：平成25年3月27日～平成27年3月26日の2年間）

○災害医療訓練等に、次のとおり参加した。

訓練実施日	会場	訓練名称	参加者
H24.6.2～3	仙台市急患センター	東北DMAT技能維持研修	1名
H24.7.23～24	東京都立川市	統括DMAT研修	2名
H24.9.9	酒田市立八幡病院敷地内	酒田市防災訓練	6名
H24.10.6～7	新潟県新潟市、新発田市	東北ブロックDMAT参集訓練	5名

H24. 10. 21	新庄市	新庄市防災訓練	6名
H24. 11. 5 ~8	東京都立川市	DMA T 隊員養成研修	1名
H24. 11. 7 ~10	兵庫県神戸市	DMA T 隊員養成研修	1名
H24. 11. 20	JR 山形駅付近、県立中央病院敷地内	国民保護共同実動訓練	7名
H24. 11. 27	庄内空港敷地内	庄内空港消火救難訓練	4名
H24. 12. 1	山形県庁	山形県災害医療研修会	1名
H25. 1. 5	仙台市急患センター	東北DMA T ロジステックス研修	3名
H25. 1. 5 ~6	仙台市急患センター	東北DMA T 技能維持研修	5名

○日本海総合病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修を次のとおり実施した。

実施日	会場	研修内容等	参加者
H24. 6. 19	日本海総合病院講堂	「災害医療におけるトリアージ」	98名
H24. 7. 30	日本海総合病院講堂	講演「医療機関も被災する災害対応 災害拠点病院はどうする？」 藤沢市民病院 救命救急センター長 阿南 英明 氏	137名
H24. 9. 7	日本海総合病院講堂	「トリアージタグの取り扱い方法」	80名
H24. 11. 24	日本海総合病院 エントランス、 外来ほか	「災害対応実働訓練（大地震想定）」	243名 （酒田地区消防組合、酒田市立看護専門学校からの参加含む）
H25. 1. 18	日本海総合病院 エントランス	「災害対応実働訓練意見交換会」	47名 （酒田地区消防組合からの参加含む）
H25. 3. 22	日本海総合病院講堂	講演「石巻医療圏における東日本大震災への対応」 東北大学病院 教授 石井 正 氏	124名 （酒田地区消防組合、鶴岡市立荘内病院からの参加含む）

○災害発生時に備え、次の災害医療対策用機器等を整備及び備蓄した。

	機材	機器名	メーカー	規格	数量	備考
災害医療チーム 体制整備	情報通信 端末	衛星携帯電話	KDDI	EXPLORER700	1	第3次補正 繰越
	応急用医療 資器材	カプノメーター	日本光電	WEC7301	1	第3次補正 繰越
		モバイルスコープ	オリンパス	MAF-TM	2	第3次補正 繰越
災害拠点病院設備	応急用医療 資器材	屋外用LED投光器	日動工業	エコナイター30	2	第3次補正 繰越
		緊急対策用トイレ	ケンユウ	ベンリー袋(100 回)	10	第3次補正 繰越
		備蓄資材搬送リヤカ ー	ピカ	PHC-130	2	第3次補正 繰越
		患者搬送車	パラムウントベッド	KK726	2	第3次補正 繰越
		新生児避難用具	大衛	レスキューママほか	20	第3次補正 繰越
		患者緊急避難用具	キャピー	エアストレッチャー	9	第3次補正 繰越
		本部資器材	プラス他	ホワイトボード 12 台、ビブス 350枚 他	1	病院予算

○非常用発電装置の浸水防止工事については、山形県が公表した「津波浸水域予測図」及び酒田市が作成した「津波ハザードマップ」を参考に、その必要性について検討した結果、津波の影響は極めて少ないと判断したため見送ることとした。

○災害時においても、優先納入できることを条件に加え、物品購入契約を締結した。

○新たな感染症が発生した場合には、他の関係機関と連携して対応するとともに、感染対策委員会を中心に情報収集を行い、患者の受け入れを行っていく。

③政策医療の実施

○日本海総合病院において、ハイブリッド手術室の整備について検討を行った。

○第二種感染症指定医療機関である日本海総合病院では、感染症患者の受け入れ体制を検討し、感染症病床2床分の改装移転を行った。

○日本海総合病院において「認知症疾患医療センター」を運営し、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施した。

【実績】

	H23	H24
新規相談件数	645件	789件
継続相談件数	300件	286件

④医療スタッフの確保及び資質向上

a) 医療人材の確保・育成

- 高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化を図った。
- 臨床研修医、レジデント及びスチューデントドクターの受入れ拡大に努めた。

【実績】

	H 2 3	H 2 4
臨床研修医	1 4 名	1 3 名
レジデント	1 2 名	1 6 名
スチューデントドクター		1 6 名

- 教育研修体制の充実を図るため、レジデントハウスの建築について検討を行い、平成25年2月に着工した。
- より質の高い看護を提供するため、次の研修会を実施した。

実施日	対象者	人数	研 修 内 容
H24. 6. 28	H24 年度 個人研究 発表者	9 名	「看護研究(個人):研究計画書に基づき、個別指導を通して看護研究実践能力を高める」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 教授 細谷 たき子 先生
H24. 6. 28	H25 年度 発表部署	27 名	「看護研究(個人):研究計画書に基づき、個別指導を通して看護研究実践能力を高める」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 助教 森鍵 祐子 先生
H24. 8. 8	レベル1 受講者	102名	「ヘンダーソンの看護理論を共通理解し看護実践ができる」 酒田市立看護専門学校 副学校長 草刈 妙 先生
H24. 11. 5	H24 年度 個人研究 発表者	9 名	「集計に必要な統計手法の個別指導を通して看護研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 教授 細谷 たき子 先生
H24. 11. 20	H25 年度 発表部署	32 名	「集計に必要な統計手法の個別指導を通して看護研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 助教 森鍵 祐子 先生

- 緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師、脳卒中リハビリテーション認定看護師及び慢性心不全看護認定看護師の資格を新たに取得するため、4名の職員を研修に派遣した。
- 薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図った。

- 緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、人工呼吸サポートチーム、感染対策チーム及び褥瘡対策チームで、多職種による医療の提供を行った。
- 医師確保と定着化を図るため、短時間正職員制度の導入を検討した。
- 各病棟などに医療クラークを配置し、継続して医師の負担軽減を図った。

【実績】医療クラークの配置数

H 2 3	H 2 4
6 0 名	5 9 名

b) 事務職員の確保と専門性の向上

- 他病院の事務職員と合同活動発表会を開催し、事務職員の知識の習得と専門性の向上を図った。
- プロパー職員として診療情報管理士 1 名を採用し、既に資格を取得している臨時職員と合わせて 8 名を確保し、専門性の向上を図った。

⑤医療サービスの効果的な提供

a) 地域連携の推進

- 庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携の強化に取り組んだ。

【実績】紹介率及び逆紹介率

	H 2 3	H 2 4
紹介率	6 1 . 8 %	6 1 . 5 %
逆紹介率	4 1 . 8 %	4 5 . 2 %

※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

- ・地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組の強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスを提供した。

b) ITネットワークの活用(「ちょうかいネット」の活用推進)

- 平成 2 3 年 4 月から稼働した「ちょうかいネット」について、利用する医療機関等の拡大を図った。

・平成 2 5 年 3 月 3 1 日現在の状況

病 院	医 科 診療所	歯 科 診療所	調剤薬局	介護老人 保健施設	訪問看護 ステーション	その他	登録患者数
1 5 施設	5 3 施設	6 施設	1 1 施設	4 施設	2 施設	1 施設	6, 6 6 9 名

- 「5大がん」及び「大腿骨頸部骨折」の地域連携クリティカルパスについても、「ちょうかいネット」を活用した運用を行なった。

c) 地域連携クリティカルパスの活用

- 「5大がん」及び「大腿骨頸部骨折」の地域連携クリティカルパスについて、継続して積極的に活用した。
- 平成24年12月から、新たに「脳卒中」の地域連携クリティカルパスを稼働させた。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

	H23	H24
肺がん	4件	0件
大腸がん	16件	13件
肝がん	0件	0件
乳がん	7件	24件
胃がん	14件	9件
CHS	111件	105件
脳卒中		92件

※CHS…大腿骨頸部骨折

⑥庄内地域における医療水準の向上

- 地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、県立保健医療大学、県立病院などとの人材交流や研修を通して質の高い医療従事者の育成を推進した。
- 平成23年度から日本海総合病院内に開設されている、山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室の調査活動に協力した。

⑦住民の意識の啓発

- 地域住民を対象としたセミナー、病院広報紙などの発行を積極的に行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。
 - ・患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を年間4回発行し、病院機構の様々な情報提供に努めた。
 - ・地域がん診療連携拠点病院として、地域住民を対象に講演会等を開催し、健康に対する意識の啓発・情報提供を行った。

実施日時等	事業内容	備考
H24.7.14 絆レポート 酒田	緩和ケア講演会 「在宅緩和ケアで朗らかに生きよう～おひとり様でも大丈夫～」 医療法人聖徳会 小笠原内科 院長 小笠原 文雄 先生	170名参加

- ・山形大学医学部先端分子疫学研究所とともに、市民公開講座を開催した。

実施日時等	事業内容	備考
H25.1.19 日本海総合病院 講堂	「知って得する！？ 生活習慣病予防の話」 第1部「生活習慣病について知ろう」 山形大学医学部 准教授 成松 宏人 先生 第2部「生活習慣病と運動について」 日本海総合病院 リハビリテーション室 佐藤克実 主任理学療法士 「食べて防ごう！生活習慣病」 日本海総合病院 栄養管理室 高橋瑞保 主任管理栄養士	111名参加

- ・他の機関が行うセミナー等への講師派遣について協力した。

(3) 患者・住民サービスの一層の向上

- 日本海総合病院において、外来診療の待ち時間調査を実施し、実態把握を行った。今後、待ち時間短縮に向けて改善策の検討を行う。
- 「患者の声」の院内掲示及び病院ボランティアとの意見交換を行い、患者・住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだ。
- 病院機構及び2病院のホームページにより、病院情報の提供を行った。
- 日本海総合病院において、設備などの改修・補修を行い院内環境の整備を図った。
- ・平成24年度は、次のとおり整備を行った。

整備箇所	整備内容
感染症室	1室2床から1室1床の個室として、2室整備を行った。
リハビリ室	理学療法室及び廊下の床張り替えを行った。
外来診察室	診察室のドアを開き戸から引き戸へ改修した。
正面玄関	冬期間の寒さ対策のため、風除室を設置した。
5・6階病棟	病室のカーテンをすべて更新した。

- 外来患者等の来院状況をふまえ、患者用駐車場の拡張について検討した結果、平成24年度においては拡張工事を見送ることとし、今後の課題とした。
- 日本海総合病院において、平成20年度から継続して重症心身障がい児（者）短期入所事業を行った。

【実績】延べ利用者数

H23	H24
30名	28名

- 地域の子育て支援と児童の健康、安心の向上を図るため、日本海総合病院の院内保育所「あきほ保育園」において、酒田市からの受託事業として病児・病後児保育を実施した。

【実績】延べ利用者数

H 2 3	H 2 4
9 4 名	3 0 4 名

(4) 法令等の遵守と情報公開の推進

- 病院機構の医療人としての倫理綱領等を定めた。(22ページ参照)
- 医療情報のセキュリティ対策の向上のため、定期的に電子カルテへのアクセス監視を行った。
- 全職員及び委託職員を対象に、医療情報セキュリティ研修を行った。
- インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。

【実績】診療情報提供申出件数

	H 2 3	H 2 4
日本海総合病院	3 2 件	4 9 件
酒田医療センター	4 件	7 件

(5) 医療安全対策の充実・強化

- 継続して安全・安心な医療の提供に資するため、平成24年度は次のような研修会等を開催した。

実施日時等	研 修 内 容	備 考
H24. 7. 10 日本海総合病院 講 堂	第1回 「医療安全活動の成果と課題」 東北大学病院 医療安全推進室・乳腺内分泌外科 GRM・特命教授・推進室長 藤盛 啓成 先生	138名参加
H24. 11. 30 日本海総合病院 講 堂	第2回 「安全を守る為の職員間のコミュニケーション」 東京海上日動メディカルサービス(株) メディカルリスクマネジメント室 工藤 千佳 先生	131名参加

- 医療安全管理者を中心に速やかな情報の収集・発信・共有を図り、医療安全対策の一層の向上に努めた。

2 施設整備及び医療機器等の整備計画

(1) 統合再編に係る施設整備

酒田医療センターの増築・改修工事について、平成24年度末現在の工事進捗状況は次のとおりである。

◆酒田医療センターの施設整備内容

項 目	内 容	備 考
A棟（東棟改修）	・ 70床（2病棟） ・ 機能訓練室	完成
B棟（病棟増築）	・ 44床 ・ 通所リハビリテーション施設 ・ 給食施設	完成
エントランス棟	西棟の解体後にA棟とB棟をつなぎ入口部分となるもの。	H25.5月 完成

(2) 高度医療機器の計画的な更新・整備

○高度専門医療等の充実のため、平成24年度は次のとおり高度医療機器の更新・整備を行った。

診療科	機 器 名	備 考
放射線科	マルチスライス 320 列 CT 装置	更新
放射線科	P E T / C T 装置	新規

【平成24年度における医療機器・施設整備に関する実績】

(単位：百万円)

区 分	執行額	財 源
資本支出		
建設改良費	1,816	設立団体からの
日本海総合病院 レジデントハウス整備	118	長期借入金、出
同 上 一般改修等	102	資（出資債）及
酒田医療センター増築・改修等	778	び自己資金
医療機器整備等	818	

3 患者動向と収支の実績

平成24年度における患者数と収支については、次のとおりである。

(1) 患者数

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H23	H24	増減	H23	H24	増減	H23	H24	増減
延入院患者数 (人)	203,310	199,673	△3,637	24,787	24,352	△435	228,097	224,025	△4,072
実入院患者数 (人)	17,354	17,040	△314	365	423	58	17,719	17,463	△256
入院/1日 (人)	555.5	547.0	△8.5	67.7	66.7	△1.0	623.2	613.7	△9.5
病床利用率 (%)	86.0	84.7	△1.3	62.7	77.4	14.7	—	—	—
病床回転率 (%)	260.7	260.0	△0.7	44.5	52.5	8.0	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.7	11.7	0	68.5	57.9	△10.6	—	—	—
延外来患者数 (人)	339,475	337,023	△2,452	459	588	129	339,934	337,611	△2,323
新外来患者数 (人)	31,317	31,733	416	32	42	10	31,349	31,775	426
外来/1日 (人)	1,391.3	1,375.6	△15.7	1.9	2.4	0.5	1,393.2	1,378.0	△15.2
病 床 数 (床)	646	646	0	114	79	△35	760	725	△35

(2) 患者一人当たりの診療単価

(単位：円)

日本海 総合病院	H23	H24	増 減	酒田医療 センター	H23	H24	増 減
入 院	55,052	56,510	1,458	入 院	16,081	21,347	5,266
外 来	11,165	11,741	576	外 来	2,372	3,261	889

(3) 予算及び決算

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	20,480	20,874	394
営業収益	16,422	16,957	535
医業収入	15,810	16,343	533
運営費負担金	612	614	2
営業外収益	1,460	1,338	△ 122
運営費負担金等	1,299	1,152	△ 147
その他	161	186	25
資本収入	2,598	2,367	△ 231
運営費負担金	939	50	△ 889
金銭出資の受入	—	1,179	1,179
長期借入金	1,226	1,135	△ 91
その他(補助金等)	433	3	△ 430
その他の収入	—	212	212

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支出	19,899	19,150	△ 749
営業費用	15,308	14,938	△ 370
医業費用	15,092	14,777	△ 315
給与費	7,995	8,044	49
材料費	3,975	3,919	△ 56
経費	3,040	2,742	△ 298
資産減耗費	4	5	1
研究研修費	78	67	△ 11
一般管理費	216	161	△ 55
営業外費用	728	719	△ 9
資本支出	3,624	3,391	△ 233
建設改良費	2,049	1,816	△ 233
長期借入金返還金	1,575	1,575	0
その他の費用	239	102	△ 137

(4) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	17,882	18,528	646
営業収益	16,422	16,982	560
医業収益	15,810	16,314	504
運営費負担金収益	612	614	2
資産見返運営費負担金戻入	—	54	54
営業外収益	1,460	1,332	△ 128
運営費負担金収益	1,299	1,152	△ 147
その他医業収益	161	180	19
その他の収入	—	214	214
支出	17,879	18,077	198
営業費用	16,622	16,569	△ 53
医業費用	16,406	16,413	7
一般管理費	216	156	△ 60
営業外費用	728	925	197
その他の支出	529	583	54
純利益	3	451	448

(5) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	27,408	29,011	1,603
業務活動による収入	17,882	18,198	316
診療業務による収入	15,810	16,343	533
運営費負担金による収入	1,911	1,766	△ 145
補助金等収入	—	59	59
その他の業務活動による収入	161	30	△ 131
投資活動による収入	1,372	6,055	4,683
運営費負担金による収入	939	151	△ 788
有価証券の売却による収入	—	5,900	5,900
その他の投資活動による収入	433	4	△ 429
財務活動による収入	1,226	2,314	1,088
長期借入による収入	1,226	1,135	△ 91
金銭出資の受入による収入	—	1,179	1,179
前年度からの繰越金	6,928	2,444	△ 4,484
資金支出	19,899	24,296	4,397
業務活動による支出	16,275	15,793	△ 482
給与費支出	7,995	8,070	75
材料費支出	3,975	4,101	126
その他の業務活動による支出	4,305	3,622	△ 683
投資活動による支出	2,049	6,924	4,875
有形固定資産の取得による支出	2,049	2,223	174
有価証券の取得による支出	—	4,700	4,700
その他	—	1	1
財務活動による支出	1,575	1,579	4
長期借入の返済による支出	460	460	0
移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,115	1,115	0
その他の財務活動による支出	—	4	4
翌年度への繰越金	7,509	4,715	△ 2,794

4 その他業務運営に関する事項

(1) 就労環境の整備

院内保育所「あきほ保育園」では、職員の子育て支援を図るため、継続して酒田市の病児・病後児保育事業を受託し、さらに24時間保育の日数等の拡大を検討し、平成25年度から実施することとした。

(2) 酒田市立酒田看護専門学校への支援

看護教員の計画的育成のため、看護師2名を教員養成研修に派遣した。

(3) 人間ドック機能の見直し

○日本海総合病院の人間ドックの見直しを行い、公益財団法人やまがた健康推進機構や診療所等との連携を図り、検査等の機能分担を行った。

○日本海総合病院では、オプション部分である上・下部内視鏡、胸部CTを担った。

【実績】

上部内視鏡	下部内視鏡	胸部CT
138件	138件	139件

(4) 地球環境にやさしい病院づくり

A重油を燃料とするボイラー等から天然ガスを燃料とするものに切り替えを行い、CO₂の排出削減を図った。また、給食調理で発生する使用済み食用油（廃油）については、リサイクルに協力し、その有効利用を図った。

(5) 酒田市飛島診療所への支援

酒田市飛島診療所について、酒田市の要請に基づき4月から10月までの間、日本海総合病院の医師が金曜日と土曜日に診療支援を行った。

【実績】派遣医師数、診療日数及び延べ患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
派遣医師数	3名	3名	5名	4名	5名	3名	2名	24名
診療日数	6日	6日	10日	8日	9日	5日	4日	48日
延べ患者数	81名	54名	74名	68名	87名	58名	95名	517名

※8月31日～9月1日にかけて派遣された医師がいるため、派遣医師数計が一致しない。

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
「基本理念」、「倫理綱領」及び「運営方針」

I 基本理念

- 1 安心、信頼、高度な医療提供
- 2 保健、医療、福祉の地域連携
- 3 地域に貢献する病院経営

II 倫理綱領

◆ 使命

山形県・酒田市病院機構は、全ての職員が医療人として職責を自覚するとともに、公平・公正な医療を提供し、地域住民と地域社会に貢献することを使命とします。

◆ 行動指針

- 1 患者さんの人格を尊重し、患者さんや家族の視点に立ち、十分な説明と同意に基づいた医療を行います。
- 2 患者さんのプライバシーを尊重し、職務上の守秘義務を遵守します。
- 3 生命の尊厳に最大限の敬意を払い、良質で安全な医療を行います。
- 4 常に知識と技術の習得に努めるとともに、医療の進歩と発展に尽くします。
- 5 職員同士が互いに尊敬し合い、協力のもと医療を行います。
- 6 職務の尊厳と責任を自覚し、人格と教養を高めます。
- 7 医療の公益性を重んじ、法規範を遵守し、医療を通じて地域社会の発展に貢献します。

III 運営方針

◆ 日本海総合病院

- 1 対話とプロセスを大切にした良質な医療を提供し、地域のニーズに応えます。
- 2 24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努めます。
- 3 保健、福祉、介護と連携を図り、地域の医療ネットワークの中核病院としての役割を果たします。

◆ 酒田医療センター

- 1 家族、地域社会と協力・連携し、患者さんの心理面に配慮した支える医療やケア、リハビリテーションの提供に努めます。
- 2 患者さんに寄り添い、「その人らしさ」を大切に、安心して穏やかに過ごせる環境づくりに努めます。